

hello expo! 2025 04.13



カレンダー 新作展示会

2026年版

入場
無料



名入れカレンダー約1,600点が並ぶ、国内最大級の専門展示会

開催
2025年4月8日(火) ▶ 9日(水)

8日 午前10時30分～午後5時 ※8日の開会式は午前10時から
9日 午前9時30分～午後5時

●2026年版新作カレンダー約1600点の公開展示 ●JCAL選出の優秀賞受賞作品の発表展示 ●中南米諸国など海外カレンダーの展示



同時開催 暦文協ミニフォーラム 「万博とカレンダー」 4月8日(火) 14:00～16:00(受付13:30より)

参加無料

場所/展示会内特設会場 ※万一定員を超えた場合には立見となる場合がございます。予めご了承ください。

主催 日本カレンダー 暦文化振興協会

同時リモート配信 4/8(火)当日14:00より、インターネットを用い同時配信を行います。参加/閲覧方法は暦文協のホームページにてご案内いたします。

お問合せ：暦文協事務局 TEL:03-5816-5066 FAX:03-5816-5036 https://www.rekibunkyo.or.jp

第一部 基調講演 中牧 弘允 氏 暦文協理事長、国立民族学博物館名誉教授、吹田市立博物館特別館長

第二部 パネルディスカッション 中牧 弘允 氏 新日本カレンダー株式会社 代表取締役 宮崎 安弘 氏 司会 暦文協常務理事、(公財)山階鳥類研究所シニアフェロー・理事、関西学院大学名誉教授 奥野 卓司 氏

展示会場内ステージにて

「12月3日はカレンダーの日」

明治5年(1872)11月9日、宮中において改暦式が行われ、大勢の役人が参席する中、明治天皇は大臣を従えて賢所便殿に出御し、伊勢神宮を拝拝し暦法改正の由を親告なされました。明治天皇の詔書が発せられると、政府は太政官布告により「来る12月3日を以て明治6年1月1日とし太陽暦を実施する」と公布。長い間、太陰太陽暦で生活していた国民にとって、突然の改暦は大変大きな衝撃でした。しかしその結果、太陽暦を採用する諸外国と足並みを揃えることになり、日本は文明開化の道を歩み始めました。この史実に基づき昭和63年(1988)に、全国団扇扇子カレンダー協議会、並びに全国カレンダー出版協同組合連合会によって12月3日は「カレンダーの日」と定められました。